

第1回研究会開催

栄養士・管理栄養士の活躍に期待集まる

「日本を健康にする！」研究会

健康・栄養食品メーカー、企業など約100名と栄養士・管理栄養士が参加し、研究会の今後、消費者が情報を共有の活躍にエールを送って健康増進に取り組むた。

研究会会長の大澤俊彦氏(名古屋大学大学院)が「社会に求められる機能性食品」と題して講演。骨粗しょう症を早期診断のためのバイオマーカーの開発状況や、醗酵処理して抗酸化性を増強したレモンポリフェノールの活性、セサミンノール配糖体の動脈硬化抑制作用など最新のヘルスフードの有用性を報告した。

研究会では、今後、栄養士・管理栄養士を対象とした勉強会や、消費者向けイベントやセミナーなどを定期的に予定している。2月から開設した健康・栄養情報インターネットサイト「MEAL PLAZA(ミルプラ: URL、<http://meal-plaza.jp>)」では、栄養士・管理栄養士の資格を持ったスペシャリストが消費者からの栄養に関する質問に回答したり、栄養情報コラムなどで健康に関する知識を発信している。

『「日本を健康にする！」研究会』(事務局 氏(東京海洋大学大学院・RDサポート・東京大学千代田区、03・5217・5561)の第1回研究会が2月18日に東京都渋谷区のT、sクロバー新宿で開催された。設立を祝して研究

研究会会長の矢澤一良氏(東京海洋大学大学院)は「栄養士・管理栄養士の方は栄養に関する情報を豊富に持っている。欧米では補完代替医療が一般の食事まで入っている。日本でも健康の3原則であるヘルスフード(体)、ブレインフード(脳)、ムードフード(心)を兼ね備えた栄養管理が重要とした。

また、副会長の大澤俊彦氏(名古屋大学大学院教授)が「社会に求められる機能性食品」と題して講演。骨粗しょう症を早期診断のためのバイオマーカーの開発状況や、醗酵処理して抗酸化性を増強したレモンポリフェノールの活性、セサミンノール配糖体の動脈硬化抑制作用など最新のヘルスフードの有用性を報告した。



矢澤一良会長